

平安京左京五条三坊九町跡・烏丸綾小路遺跡の発掘調査

－中世の酒屋と墓－

(財)京都市埋蔵文化財研究所 柏田有香

遺跡の時期

調査地は、鴨川扇状地上の安定した基盤層の上に立地し、弥生時代から古墳時代にかけては大規模な集落遺跡（烏丸綾小路遺跡）が形成されました。平安京遷都に伴い、平安京左京五条三坊九町に位置するようになります。平安時代後期には歌人藤原親隆の邸宅があったと伝えられています。中世以降は下京の中心として栄え、史料から周辺には様々な商工業者が集住していたことが明らかにされています。さらに江戸時代には、古絵図などから武家屋敷（藩邸）が存在したことがわかっています。

調査の概要

調査地は烏丸通と綾小路通の交差点を西に約 50 m 入った北側に位置します（図 2）。調査では、弥生時代の環濠と考えられる三条の溝、平安時代の掘立柱建物、中世の埋甕群や埋甕抜き取り土坑群、地下式倉庫、礎石列、石組井戸などの「酒屋」に関連すると考えられる遺構群、江戸時代の町屋建物の一部などが見つかりました。

平安京左京域は、平安時代から現在にいたるまで、人が住み続けてきた都市であり、地中には 1200 年間の生活の痕跡が刻まれています。そのため、古い時代の遺構は次々と新しい時代の遺構に壊され、失われていきます。特に江戸時代になると大型の遺構が増え、大規模な整地や火災の処理などを行うため、中世以前の遺構は断片的にしか捉えることができないことがほとんどでした。しかしながら、今回の調査地では、藩邸があったこととも関連するかと思われませんが、江戸時代に大規模な改変を受けずにいたようで、中世の遺構群を良好な状態で多数確認することができました。これらは文献に記された中世下京の繁栄した様子を具体的に示す遺構群であり、中世京都の実態解明に寄与する重要な資料として注目されています。

中世の遺構変遷（図 4）

中世の遺構群は重複関係や出土遺物から 5 時期の変遷が捉えられ、中世下京の町屋における空間利用の実態と変遷をある程度復元することができました。

1 期 京都VI期新段階（13 世紀中頃）

綾小路に面して中世の建物群が成立し始める時期。整地が施されて土間を形成する。地鎮と想定できる羽釜埋納土坑や地下式倉庫 450 がある。土坑 505 からは多量の鉄滓が出土し、鋳鉄も行われたようである。

2 期 京都VII期古～新段階（13 世紀後半から 14 世紀中頃）

「酒屋」と考えられる町屋が成立する時期。綾小路に面した空間は土間として利用され、やや奥まった場所には地下式倉庫 370 が、その北に東西 6 列、南北 6 列に埋甕が並ぶ。また、町屋の裏空間に土葬墓と考えられる方形土坑群があらわれはじめる。

3 期 京都VII期新段階～VIII期古段階（14 世紀後半）

埋甕群が廃棄され、土葬墓が継続的に造られていた時期。土坑 20・79・560 など。

4 期 京都VIII期古～中段階（14 世紀末～ 15 世紀初頭）

土葬墓と考えられる土坑群が形成されなくなる時期。土坑 418・471 は小型地下室か。

5 期 京都IX期中～新段階（15 世紀後半）

再び「酒屋」と考えられる町屋が成立する時期。礎石列や埋甕抜き取り土坑群、石組み井戸などが一連の遺構として捉えられる。蜷川家文書の『土倉酒屋注文』に、応仁乱以降の下京酒屋として「綾小路烏丸西北頬」に「澤村又次郎」という酒屋の記載がある。

2 時期の「酒屋」跡

整然と並ぶ多数の甕の存在からは、この建物が醸造を生業とする町屋であったと考えられます。そして、その候補として当地周辺に多数存在した室町時代の経済基盤を支えた「酒屋」との関係が想定できます。

14 世紀の酒屋 1 4 世紀前半に成立したと考えられる埋甕群は、綾小路通北築地推定ラインから北へ 22 m から 27 m の場所に、東西 6 列、南北 6 列に整然と並んで据えられていました。そのすぐ東側には礎石列が並び、町屋境と考えられます。そこから約 9 m 西側にも礎石が散見され、これが西側の町屋境とすれば、間口 5 間の綾小路通りに面した町屋建物の奥に甕がならぶ景観を復元できます。これらの甕はすべて常滑焼の甕で、大きいものは高さが約 90cm あります。底は、棒状のもので故意に穴を開けられており、穴が数箇所にあぶるものもありました。

中世京都では、貨幣経済の発展にともなって高利貸業者が生まれてきました。土倉とともに酒屋も豊富な資金を活用して高利貸を営み、さらに富を蓄積しました。その資金を目当てに課税しようとした幕府や朝廷と、酒屋を庇護して支配下に置く有力な寺社などとの利権をめぐるトラブルが中世を通して多数発生しました。そうした時代背景の中で、複雑な利権争いに巻き込まれ、破却されてしまったと考えることもできます。

また、この埋甕群と同時期の遺構で注目されるのが、埋甕群の南東で見つかった、地下式倉庫 370 です。東西 4.8 m、南北 2.6 m、深さ 1.25 m がある大規模な土坑です。さらに藁や木片を混ぜた床土を約 20cm の厚さで貼って叩き締めていました。この床土の自然科学分析を行ったところ、微量ながら麴菌が検出されたことから、この地下式倉庫は麴室であった可能性があります。壁沿いには壁板を固定するための杭穴と根太を受けるための礎石があり、壁と床は板貼りだったと考えられます。

15 世紀の酒屋 14 世紀の埋甕群の北側で見つかった埋甕抜き取り穴群は、出土遺物から 15 世紀

後半のものと考えられます。東西2列、南北6列に甕の抜き取り穴が並びますが、さらに東側にも広がっていたと考えられます。幕府の政所代を代々世襲した蜷川家の文書『土倉酒屋注文』には、応仁の乱以後の下京酒屋として当調査地である「綾小路烏丸西北類」に「澤村又次郎」という酒屋が記載されています。遺構の年代とも矛盾しないことから、この甕抜き取り穴群は、文献に記載された酒屋のものである可能性が高いと言えます。

土葬墓の発見

調査では、土葬墓と考えられる土坑が9基見つかりました。これらの土坑は、①方形の掘形を持ち壁板を杭留めする、②多量の土師器皿を正位置に入れる、③埋土に炭層が認められる、④鉄製の短刀あるいは小刀を入れる、⑤完形の輸入陶磁器を1点以上入れる、⑥表通りから奥まった場所にある、といった属性を持ちます。こうした特徴をもつ土坑についてはこれまで「墓」とする説と、室のような収納施設であるという説に意見が分かれていました。

しかし、今回の調査でほぼ完全な状態で見つかった土坑20を見ると、青銅製の鍋や鉄製短刀のほかに、数珠玉や桃の種、銭貨といった宗教的な意味をもつと考えられる遺物がセットで出土していることから、やはり「墓」であろうと考えています。

平安時代以前には、京内に墓を造ることは律令で禁止されていました。死者は鳥辺野や蓮台野といった京周辺の共同葬送地に葬られるか、河原などに遺棄されることも多かったようです。中世になると、市街地に墓が築かれる例が増加することが発掘成果からわかっており、今回見つかった土葬墓も大きくはその流れの中で捉えることができます。

酒屋と墓

先に紹介した土葬墓が築かれたのは、13世紀後半から14世紀後半で、酒屋が存続した時期と重なるものもあります。過去の調査でも、同様の特徴を持つ土葬墓が見つっていますが、分布は今回の調査地近辺に限定されます。またその分布が、酒屋跡と考えられる埋甕群などが見つかった遺跡の分布とも重なることは注目されます。

下京一帯は、中世京都においても商業の中心として栄え、酒屋をはじめとする経済を支えた商工業者が集住していました。また、そうした商業を営む町衆の結束力は強く、室町時代のはじめころになると町々の自治的結合の象徴である祇園会山鉾が多く出されました。

つまり、中世京都の経済を支えた下京の中心にあつて、高級な輸入陶磁器や金属製品の埋納は被葬者の財力を示し、多くの人々が埋葬に関わったことを物語る多量の土師器皿の埋納は、地縁的なつながりの深さを示すものではないかと考えられます。

おわりに

最初にも触れたように、中世京都の庶民の生活を具体的に知る資料はそれほど多くありません。特

に、葬送に関することについては文献にも記載が少なく、実態はよくわかっていません。そうした中で、今回の調査で得た資料は、人々の暮らしぶりや思想を知るための貴重な資料と言えます。

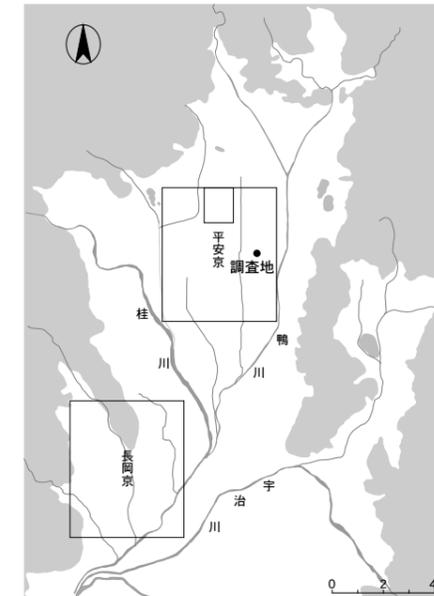


図1 遺跡位置図

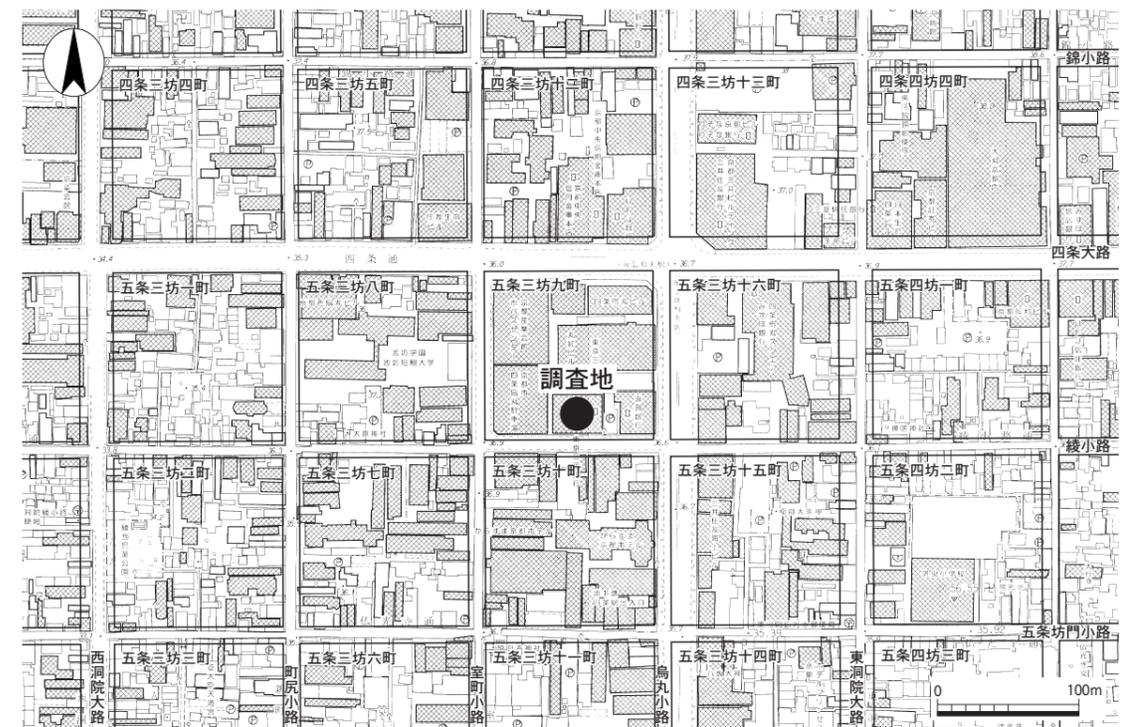


図2 調査地位置図

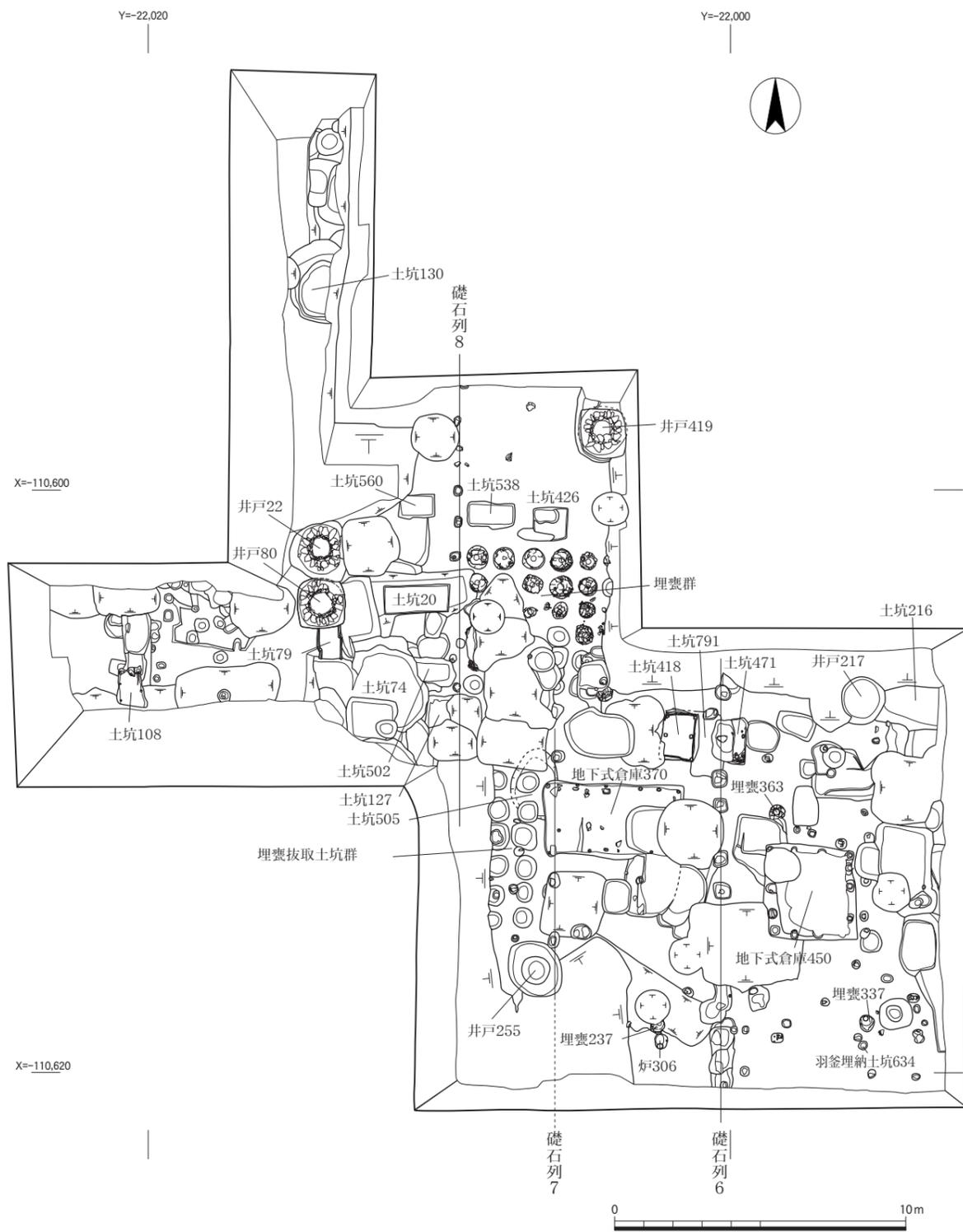


図3 鎌倉～室町時代遺構平面図 (1 : 200)

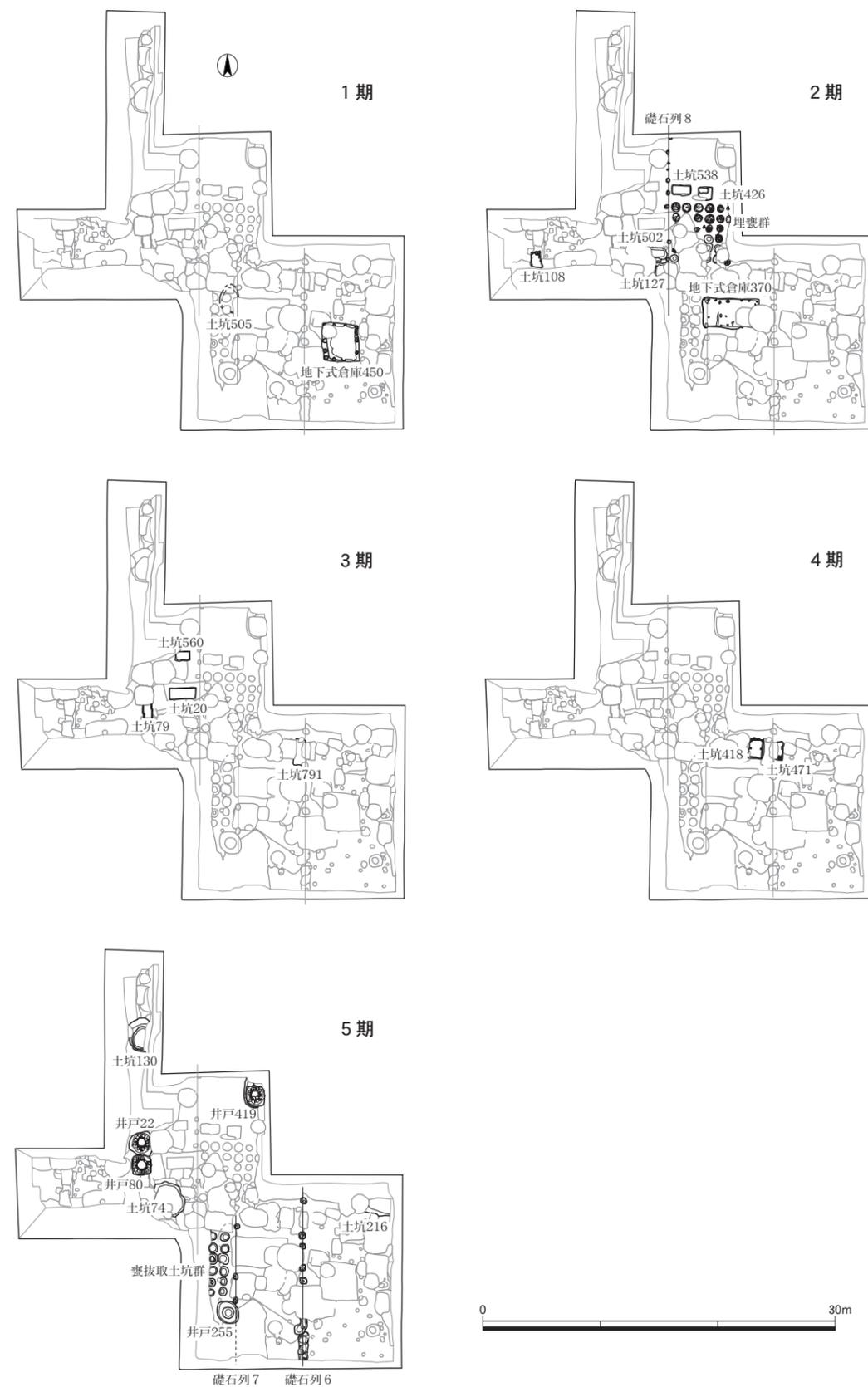
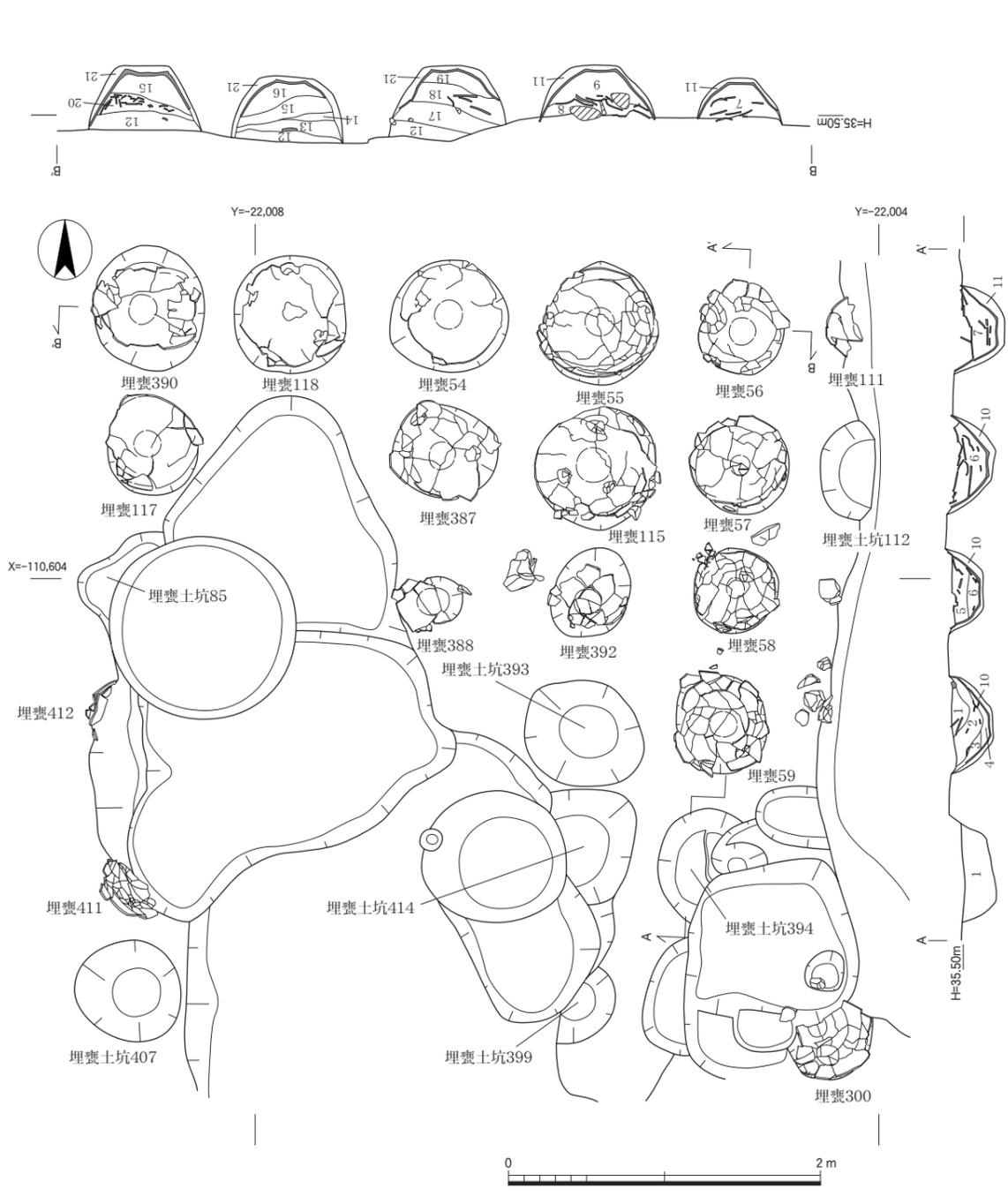
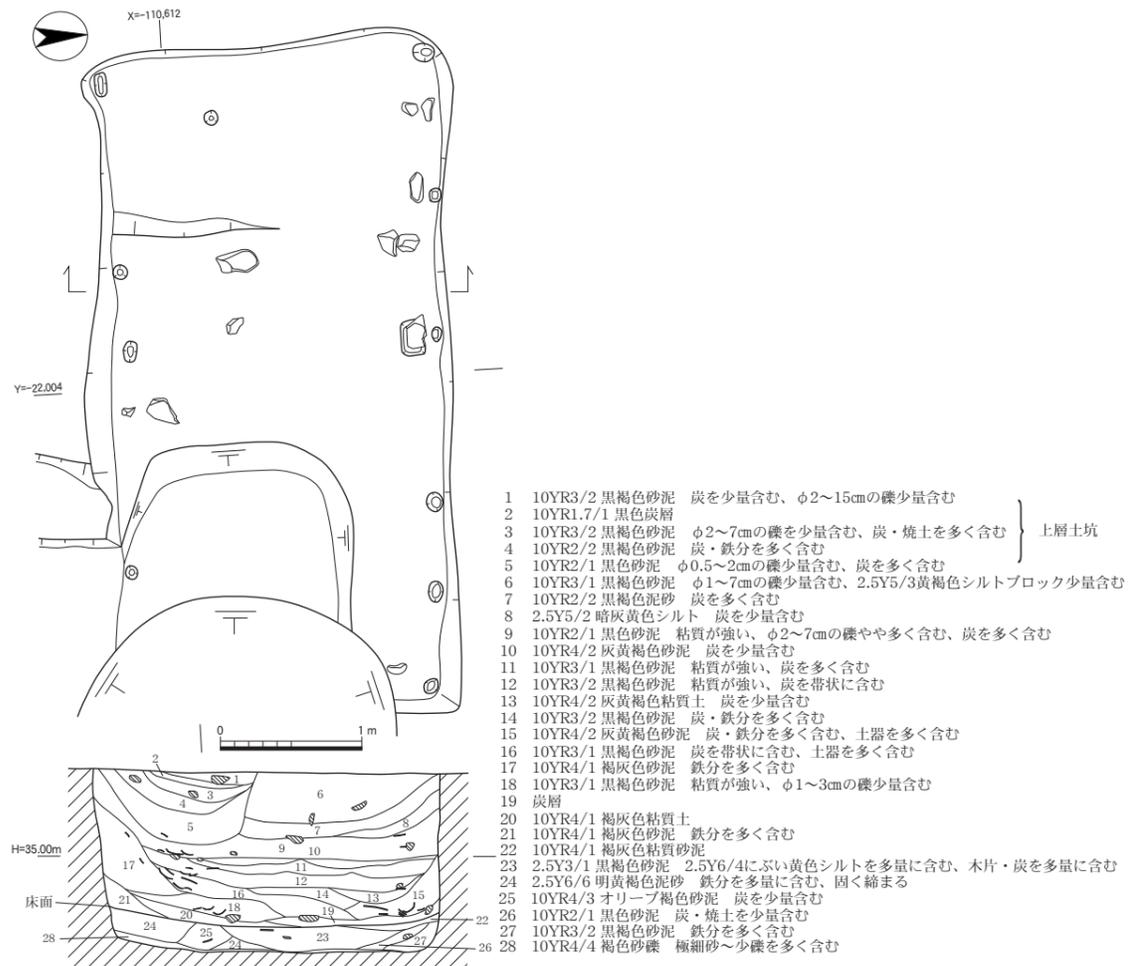


図4 鎌倉時代から室町時代の遺構変遷図 (1 : 500)



- | | | |
|---|--|-----------------------------|
| 1 10YR4/2 灰黄褐色砂泥 炭・焼土を少量含む、φ1~3cmの礫少量含む | 12 10YR3/2 黒褐色砂泥 | 10YR5/4にぶい黄褐色シルトをブロック状に少量含む |
| 2 10YR3/2 黒褐色砂泥 焼土を多く含む | 13 10YR4/2 灰黄褐色砂泥 炭を少量含む | |
| 3 10YR3/1 黒褐色砂泥 粘質が強い | 14 10YR3/3 暗褐色砂泥 炭を少量含む | |
| 4 10YR3/1 黒褐色砂泥砂 | 15 10YR3/2 黒褐色砂泥 粘質が強い | |
| 5 10YR3/2 黒褐色砂泥 やや粘質が強い | 16 10YR4/1 褐灰色砂泥 10YR5/4にぶい黄褐色シルトをブロック状に少量含む | |
| 6 10YR3/2 黒褐色砂泥 φ0.5~1cmの礫を少量含む | 17 10YR3/3 暗褐色砂泥 炭、焼土を多く含む | |
| 7 10YR3/2 黒褐色砂泥 炭を少量含む | 18 10YR3/2 黒褐色砂泥 やや粘質が強い | |
| 8 10YR3/2 黒褐色砂泥 φ1~2cmの礫を含む | 19 10YR3/1 黒褐色砂泥 炭を多く含む | |
| 9 10YR3/1 黒褐色砂泥 10YR5/4にぶい黄褐色シルトをブロック状に少量含む | 20 10YR1.7/1 黒色砂泥 φ1~5cmの礫少量含む、炭を少量含む | |
| 10 10YR3/1 黒褐色砂泥 φ1~5cmの礫少量含む、炭を少量含む | 21 2.5Y4/1 黄灰色砂泥 φ1~5cmの礫少量含む、炭を少量含む | |
| 11 2.5Y3/1 黒褐色砂泥 φ1~3cmの礫少量含む、炭を多く含む | | |

図5 埋喪群平面及び断面実測図 (1:40)



- | | |
|--|--------|
| 1 10YR3/2 黒褐色砂泥 炭を少量含む、φ2~15cmの礫少量含む | } 上層土坑 |
| 2 10YR1.7/1 黒色炭層 | |
| 3 10YR3/2 黒褐色砂泥 φ2~7cmの礫を少量含む、炭・焼土を多く含む | |
| 4 10YR2/2 黒褐色砂泥 炭・鉄分を多く含む | |
| 5 10YR2/1 黒色砂泥 φ0.5~2cmの礫少量含む、炭を多く含む | |
| 6 10YR3/1 黒褐色砂泥 φ1~7cmの礫少量含む、2.5Y5/3黄褐色シルトブロック少量含む | |
| 7 10YR2/2 黒褐色砂泥 炭を多く含む | |
| 8 2.5Y5/2 暗灰黄色シルト 炭を少量含む | |
| 9 10YR2/1 黒色砂泥 粘質が強い、φ2~7cmの礫やや多く含む、炭を多く含む | |
| 10 10YR4/2 灰黄褐色砂泥 炭を少量含む | |
| 11 10YR3/1 黒褐色砂泥 粘質が強い、炭を多く含む | |
| 12 10YR3/2 黒褐色砂泥 粘質が強い、炭を帯状に含む | |
| 13 10YR4/2 灰黄褐色粘質土 炭を少量含む | |
| 14 10YR3/2 黒褐色砂泥 炭・鉄分を多く含む | |
| 15 10YR4/2 灰黄褐色砂泥 炭・鉄分を多く含む、土器を多く含む | |
| 16 10YR3/1 黒褐色砂泥 炭を帯状に含む、土器を多く含む | |
| 17 10YR4/1 褐灰色砂泥 鉄分を多く含む | |
| 18 10YR3/1 黒褐色砂泥 粘質が強い、φ1~3cmの礫少量含む | |
| 19 炭層 | |
| 20 10YR4/1 褐灰色粘質土 | |
| 21 10YR4/1 褐灰色砂泥 鉄分を多く含む | |
| 22 10YR4/1 褐灰色粘質砂泥 | |
| 23 2.5Y3/1 黒褐色砂泥 2.5Y6/4にぶい黄色シルトを多量に含む、木片・炭を多量に含む | |
| 24 2.5Y6/6 明黄褐色泥砂 鉄分を多量に含む、固く締まる | |
| 25 10YR4/3 オリーブ褐色砂泥 炭を少量含む | |
| 26 10YR2/1 黒褐色砂泥 炭・焼土を少量含む | |
| 27 10YR3/2 黒褐色砂泥 鉄分を多く含む | |
| 28 10YR4/4 褐色砂泥 極細砂~少礫を多く含む | |

図6 地下式倉庫370(廻室?)平面及び断面実測図(1:50)

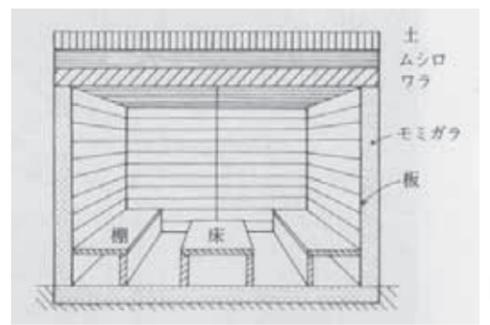


図7 現代の廻室模式図

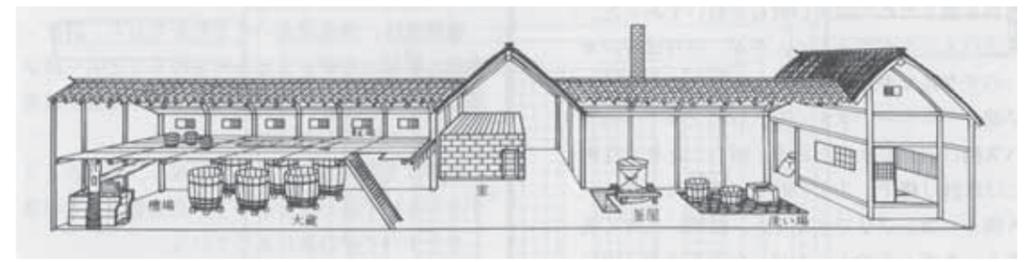


図8 現代の酒蔵模式図

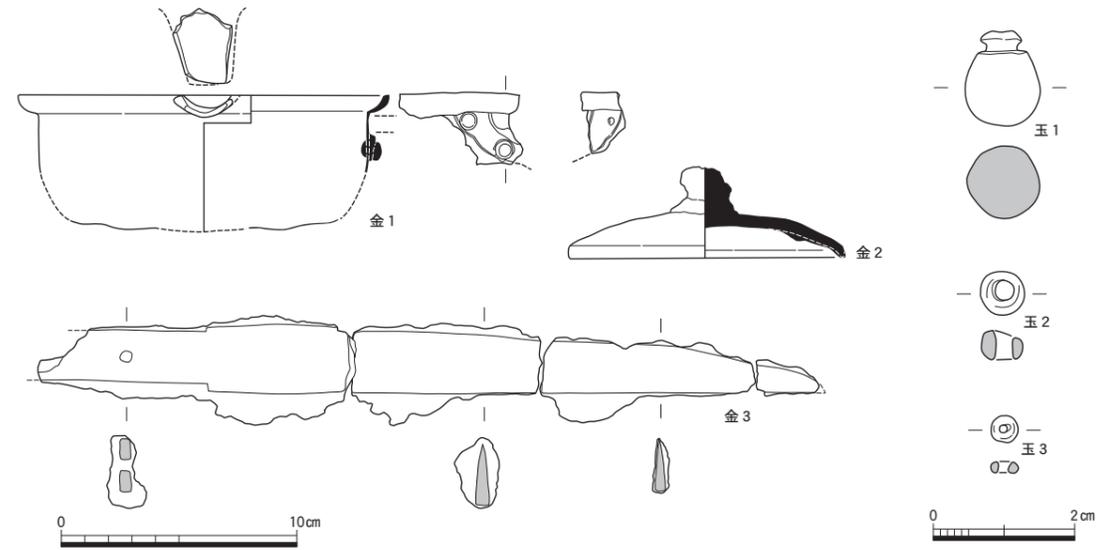
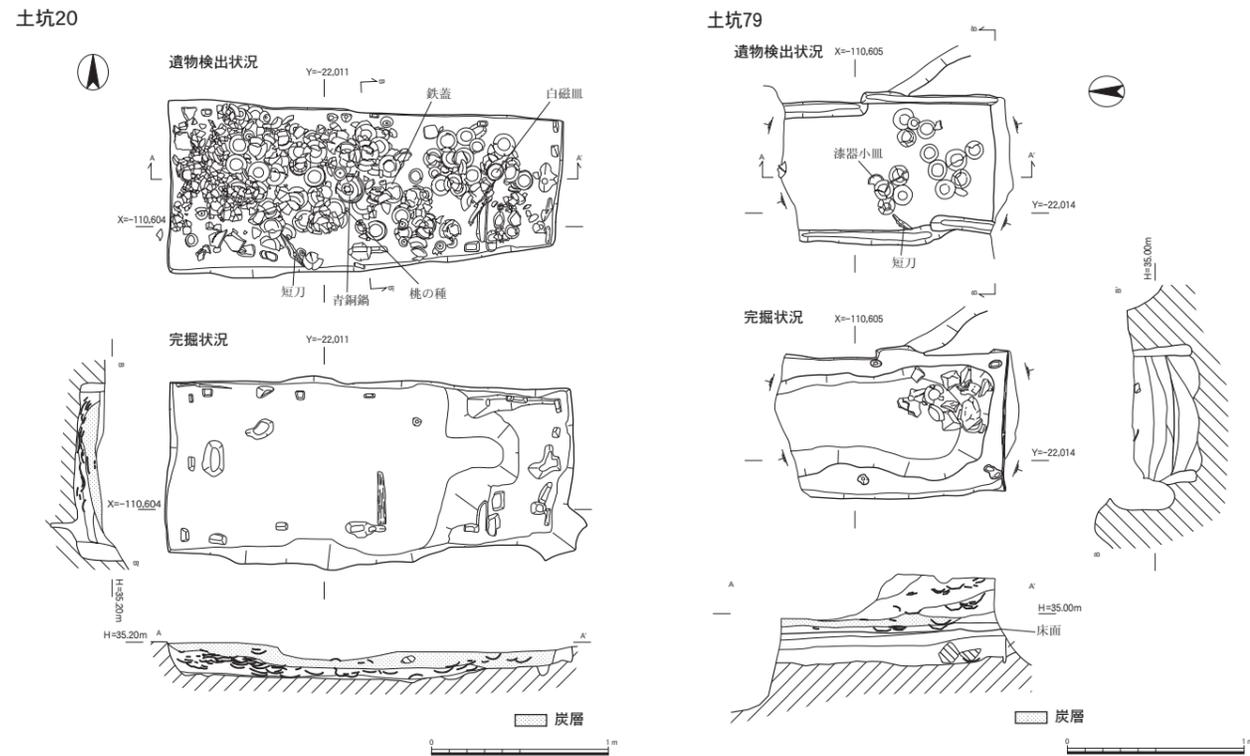


図10 土坑20出土金属製品・玉類実測図（1：3、1：1）

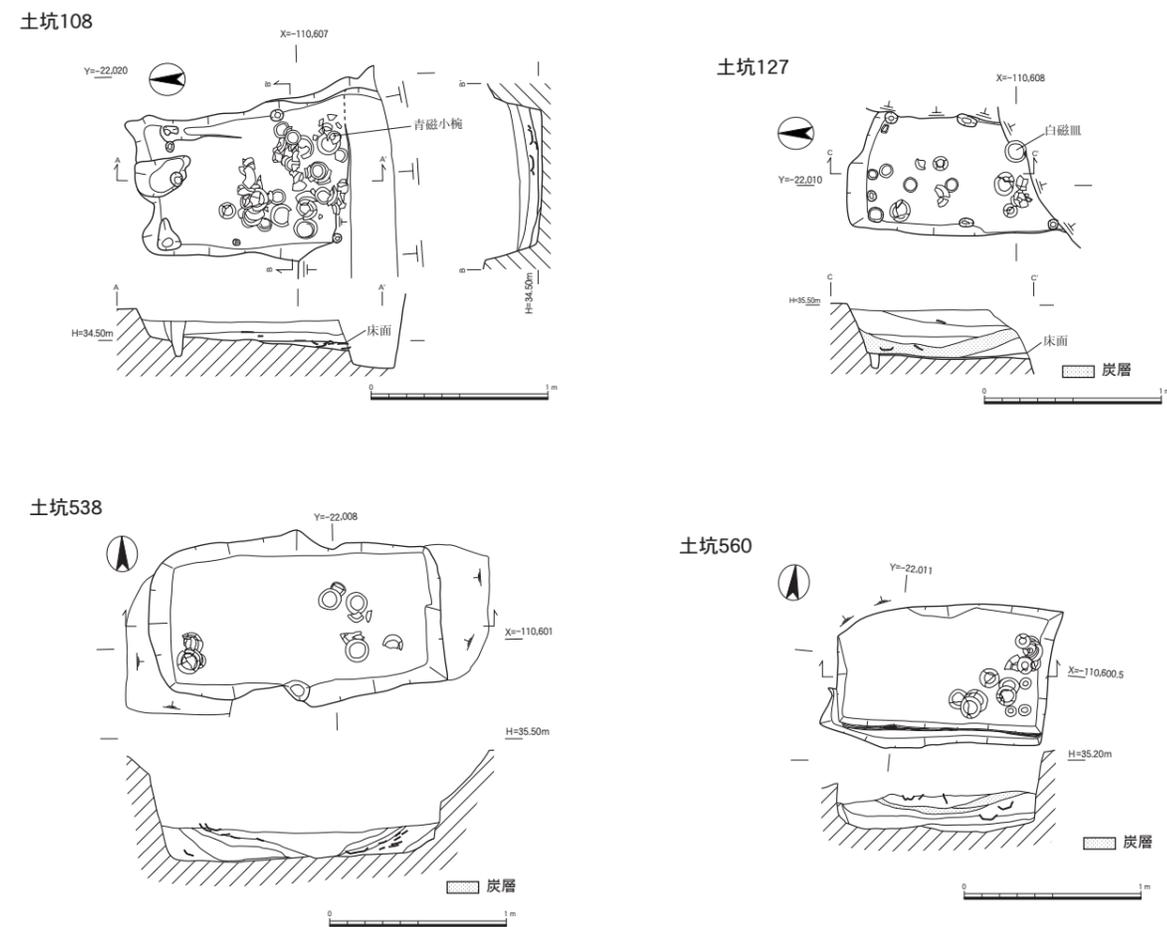
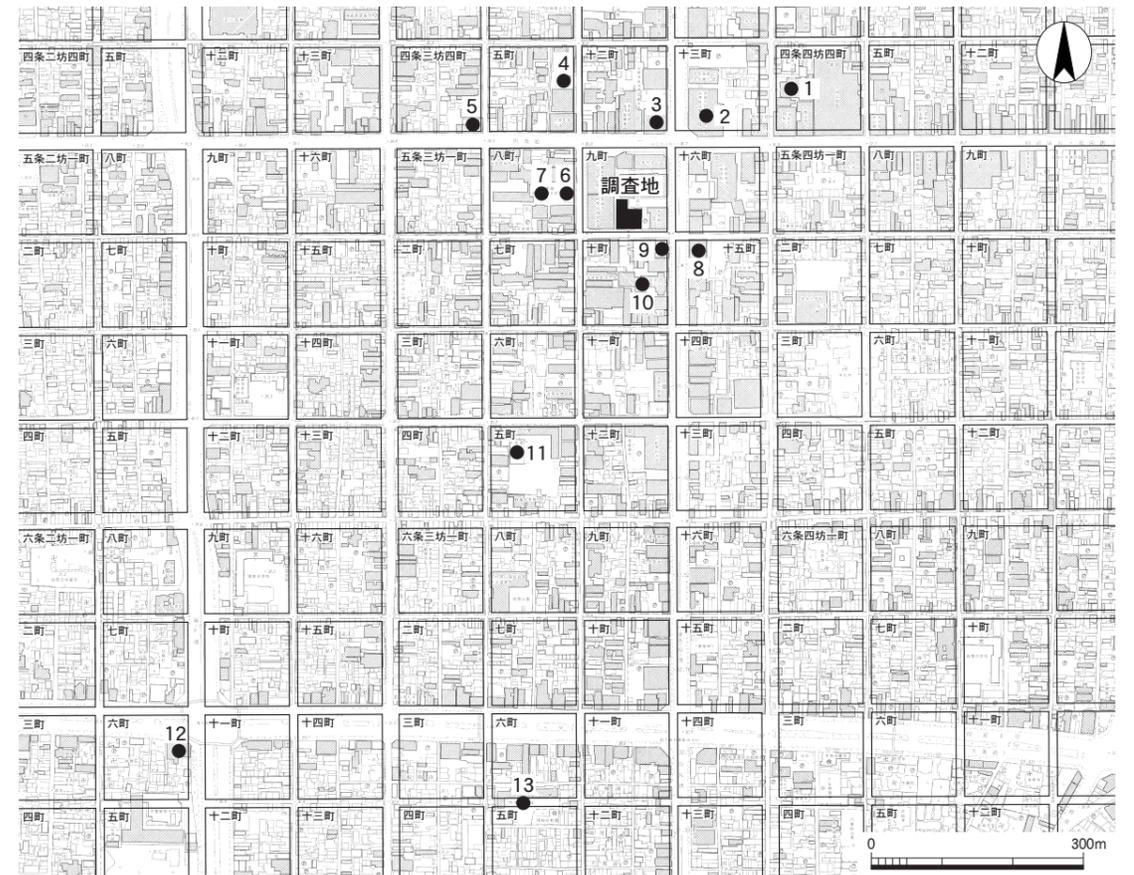


図9 方形土坑群（土葬墓？）実測図（1：40）



4・5・13 埋喪および埋喪抜取土坑出土地
 1・7・8・9・10・11・12 方形土坑（土葬墓）出土地

図11 周辺関連調査位置図（1：10,000）